

令和3年度計画及び第3期中期目標期間の中期計画における実施状況（総括）について

令和4年6月8日
大学評価委員会
委員長 久枝 良雄

大学評価委員会では、この度、令和3年度計画及び第3期中期目標期間の中期計画に係る自己点検・評価の結果について確認した。

令和3年度計画、第3期中期目標期間の中期計画については、全ての計画において順調に、或いは上回って実施しており、順調に進んだことがうかがえる。

第3期中期目標期間においては、強み・特色を持つ研究分野を軸とした先端・融合研究や卓越した学術研究の推進、世界的視野を持って生涯にわたり高い水準で能動的に学び続ける指導的人材の育成、産学官民の連携強化など自律的改革の推進と機能強化を図ってきた。主な取組は以下のとおり。

- ・エネルギー研究教育機構、アジア・オセアニア研究教育機構や人社系協働研究コモンズの設置
- ・新たなイノベーションの創出を担う人材育成を目指した共創学部の設置
- ・大学院におけるダヴィンチプログラムによる文理融合の課題解決型カリキュラム
- ・「マス・フォア・イノベーション卓越大学院プログラム」の採択及び関係学府の設置
- ・伊都キャンパスへの移転完了
- ・イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校との戦略的パートナーシップによる国際協働の拡充
- ・福岡市との定期的な意見交換会の実施
- ・指定国立大学法人への指定 など

指定国立大学法人の構想に掲げたとおり、自然科学系と人文社会科学系の知の融合による「総合知」によって、社会的課題の解決とそれによる社会・経済システムの変革に貢献するためには、第4期中期目標期間においても引き続き自律的な改革を進めていく必要がある。各実施主体においては、強みの更なる伸長に努めていただき、課題に対しても原因と対応策を検討のうえ、第4期中期目標・中期計画や指定国立大学法人構想の実現に向けた取組を加速していただきたい。

また、第4期中期目標期間では、評価指標の達成に重点を置いた法人評価が行われる。各実施主体においては、関連データ・資料を蓄積・分析のうえ、評価指標の達成に向けて注力いただきたい。

以上